

大和地区日中友好協会だより



令和7年度 第3号（2025年9月1日 編集・発行） 編集 事務局

小林泰さんのご逝去を悼む

会長 石井 功

本会および県日中で長年活躍され顧問としてご指導くださった小林泰さんが、5月1日にご逝去なさいました。93歳のご生涯でした。

遠藤了一前会長と同年齢の申年で、私よりちょうど一回り先輩に当たり、「大猿小猿」と呼び合っていました。お二人共戦中戦後の多難な日本をご存じで中国との縁が深かったことから、日中友好への思いが強く、硬い信念をもって友好活動に邁進され、私共戦後派の会員はお二方のような先輩方から多くのことを学びました。

奥様とともに町田市に住んでおられたのですが、日中友好活動が盛んになり始めた1955年に、故・村上秀信副会長とお知り合いになりそのご縁で本会の前身「県央日中友好協会」に入会されました。一方、ご先祖が大地主で千葉県佐原市に広大な田畑を残されたそうで、ご子息が早世されたこともあり退職後は町田と佐原を行き来されながら、耕作にも勤しむ多忙な日々を過ごしておられました。

1980年代に本会は、計5回の訪中国を結成し、瀋陽その他を訪問しています。そのうちの何回かは、中国通で面倒見のよい小林さんがパスポートの手配等事務手続きの一切を引き受けられて、30～40名の団員のお世話をなさったそうです。出張と訪中国を合わせると、中国行きは30回にもものぼると聞きました。

訪中国等で知り合った中国の方々と交流され、中国の友人を休日などを利用して千葉の家にお招きし、数日間農業体験をしていただいて、できた米や野菜を届けるなど、親密なお付き合いをなさっていました。上の写真のうち若い3名の方は、大和市民まつりの際会場の引地台公園に来てくださった人民中国雑誌社東京支局のスタッフで、小林さんとは長く親しく交流されていました。

小林さんは町田市の住民としても大きな役割を果たされたそうです。ご近所にお住いのFさんによれば、町田市金井の日の出が丘町会長を長く務められ、町会の水道を東京都に移管するため都との交渉を重ねて実現にこぎつけるなど、大きなお仕事をなさったとのことでした。

小林さんが、機会あるごとに口にされていた言葉があります。

「日本は食料も石油をはじめとする燃料も、その多くを海外から輸入している。だから、どこの国とも仲良くして行かなければ立ち行かないんです」

この言葉は、貿易等のお仕事を通して養われた信念に基づいていて、本会会員としての小林さんの行動に常に反映していました。隣人を大切にし、誠実な言動をもって友情を育んでゆく。その背中を、40年近く私たち大和日中の会員は見てきました。日本人が常に持ち続けたい姿勢ではないかと思えます。

近年、世界はいくつもの紛争の渦中にあり、多くの無辜の民が命を奪われる悲しい現実があります。私たちは友好活動に情熱を傾けてこられた先人の平和への思いを引き継ぎ、今後共相互理解と友好の活動を続けて参りましょう。

小林泰さん、長年にわたるお導きに、心より感謝申し上げます。どうか安らかに眠りください。



5名のうち、中央が小林さん(1987年5月)

🌸 第2回談話会のご報告

7月20(日)、生涯学習センター大会議室で開催しました。今回の発表は石井功会長による「中国の文人たち～その生き方と芸術～」で、東晋時代の陶淵明にはじまり、科挙の試験に何れも優秀な成績で受かり官僚となった唐代の王維・白楽天、宋代の蘇東坡及び明代の董其昌の5名を取り上げました。



支配的な階級と地位にありながら左遷などの不遇を余儀なくされる中で、山紫水明を愛し、世俗的な価値よりも精神の充実を求めた文人たち。その誕生と彼らの残した芸術及び日本への影響等について考えようというものでした。彼らの波乱に富んだ生涯とそこから生まれた漢詩や書画の名品を取り上げ、文人たちに共通する生き方や、芸術にはアマチュアである筈の彼らが生み出した超俗的な詩や書画の成立、後世高い評価を受けるに至った作品成立の経緯などを紹介しました。

途中、陶淵明の「飲酒 その五」を、会員の王俊秀さんが味わい深い韻律の中国語で朗読。王さんの「詩は読むものではなく歌うもの」との言葉が印象に残りました。また、王維の「竹里館」「鹿柴」を会員の王曉明さんが、蘇東坡の「春夜」を湘南日中の張嬌さんが朗読してくださいました。

質疑応答の中で、王俊秀さんが「文化大革命時に無価値のようにされた文人たちの評価が、次第に復活してきた」との発言が、心に残ります。前回に続き今回も盛況で、参加者は会員11名、県・地域協会から4名、一般22名、計37名でした。

なお、この談話会の冒頭で、ご出席戴いた県日中の三浦修専務理事から励ましのご挨拶をいただきました。また、本会で長く活躍され副会長及び顧問を務められた故・小林泰さんを偲び、出席者全員で1分間の黙祷を捧げました。

(八塚住子 記)

談話会「共に語ろう、日本と中国」今後の予定

この談話会は昨年度からシリウスの生涯学習センター大会議室で開催しています。発表者、役員のスタッフ及び会員の皆さまのご尽力により参加者は次第に増え、今年にはいって一般からの参加者が20名を超えました。今後も、会員の皆さまの更なるご支援とご尽力をいただきつつ、より充実した談話会へと高めてゆきましょう。

第3回 9月28日(日) テーマ「横浜日中友好協会と上海市の友好交流」

発表者 横浜日中友好協会事務局長 小松崎勇氏

第4回 10月19日(日) テーマ「聴き、歌い、奏でよう! 日中名曲交流」

ナレーター 本会役員 佐々木優韻、他出演者数名

第5回 12月7日(日) テーマ「最近の中国経済について」(仮題)

発表者 復旦大学・本会参与 吉田 浩二

会場…シリウス6階生涯学習センター610大会議室(定員は50名)

いずれも、午後1時45分～3時15分(入室は1時30分) 参加費無料

申込方法…メールか電話で下記宛お申し込みください。

石井 メール isao0425@outlook.jp

☎ 080-5026-0177